

生活の中の
仏教語

四摂法（布施、愛語、利行、同事）その三

ほっと通信編集委員 瀧澤皓英

今からおよそ2500年前、お釈迦さまは、どうすれば心穏やかに幸せに生きていけるのだろうか？ということを実験に考えられました。そして、答えを見つけられました。それは、「自分の幸せよりも、先に他者の幸せを願い、行動することである」と。そして、具体的な行いとして、4つの「布施・愛語・利行・同事」を示されました。この四つの行いを四摂法と言います。今回は、四摂法に含まれる「同事」について書かせていただきます。

同事とは、相手と同じ立場に見を置くことであり、他人と協力することです。今、相手が何を考え、どう思っているのかに思いを巡らし、行動を共にすることです。例えるなら、

- ・自分が辛いとき、嬉しいときかけられた「辛かったね…」「よかったね！」という言葉です。
- ・なかなか解決することができない話を打ち明けたとき、頷きながら、ただただ話を聞いてくれたことです。

- ・どうしようもない悲しみに打ちひしがれた時、なにも言わずに、そばにいてくれたことです。

つまり、相手が悲しければともに悲しみ、相手が喜ばば自分も喜ぶ。同事とは、相手の悲しみを自分の悲しみとし、相手の喜びを自分の喜びとすることです。相手が悲しければ自分も悲しいのです。相手が嬉しければ、自分も嬉しいのです。そのとき、相手と自分を隔てる垣根はなくなり、相手の立場に立った行動ができるのです。

振り返ってみるに、私たちは今までの経験から「同事」の大切さを、身をもって知っているのではないのでしょうか。そして、同事のタスキを受け取ったことに気付いたとき、今度は誰かにつないでいこうと思うのではないのでしょうか。きっとその誰かは、今度は違う誰かにつないでいくことでしょう。こうして、同事の輪がどんどん広がっていくことと思います。

仏教は、他の誰かではなく自分自身が実践するための教えです。「学んだら、それでおしまい」では意味がありません。私自身、「同事」を学んだからには、いつでも誰に対しても、「同事」を心がけていきたいと思っています。皆様も心がけられては、いかがでしょうか？

(852字) (岩手県花巻市 曹洞宗円城寺住職 曹洞宗布教師)